

○現状分析 (学力調査等の結果を踏まえた内容別・観点別の分析表)

2年		平均正答率		分析
		本校	都	
英語		54.7	55.9	場面に応じて自分で英文を書く「外国語表現の能力」で、都の平均を4.8%上回った。基本文型ドリルを中心としたルーティーンワークを継続してきた結果が出てきている。しかし、「外国語理解の能力」が5.2%下回っている。新出の英文や長文に取り組む機会が少ないのが原因と思われるので、読解練習を入れていくようにしたい。「言語文化の知識・理解」は0.7%上回っている。今まで取り組んできた基礎知識を中心としたペアワークを今後も続けていきたい。
観点別 正答率	関心・意欲	---	---	
	外国語表現の能力	45.6	40.8	
	外国語理解の能力	56.7	61.9	
	言語文化の知識・理解	59.7	59.0	

3年		平均正答率			分析
		本校	都	全国	
英語		58	59	56	日頃から文章をしっかりと音読させ、精読まで行っているため、「外国語理解の能力」は全国平均を3.6%上回った。しかし、「外国語表現の能力」は0.4%下回る結果となった。これは、生徒たちが前向きに授業に参加しようとして、言われたことを淡々とこなしていることを意味している。学習した知識を使用して表現をする機会を積極的に設ける必要がある。
観点別 正答率	関心・意欲	65.5	69.1	61.2	
	外国語表現の能力	1.4	2.3	1.8	
	外国語理解の能力	48.3	48.2	44.7	
	言語文化の知識・理解	66.8	68.4	64.7	

○指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展的な学習指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアワークを中心とした音声学習を展開し、英語の音に触れる時間を十分にとる必要がある。</li> <li>小学校で外国語活動に取り組んできた成果が出ており簡単なあいさつはできる。一方で、書くことには慣れていないので苦手意識がある。</li> <li>少人数の基礎クラスはbe動詞と一般動詞の使い方が定着していないので随時フィードバックをする必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音声学習を中心とした授業展開の中に、書く練習の時間も確保していく。</li> <li>教科書の基本文のテストや単語テストを毎週行い、単元ごとのまとめノートの提出を習慣化させ、家庭学習で復習する習慣を付けさせていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎・基本が身につけていない生徒は放課後の補充教室を通して、定着させていく。</li> <li>発展クラスの生徒が意欲的に取り組める教材を準備し、より発展的、応用的な内容のペアワークや自己表現、英作文などに取り組ませる。</li> </ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアワークを中心とした音声学習の継続が表現力につながっている。今後も継続していく。</li> <li>パターンプラクティスなどの基礎知識は定着してきているが、応用力に欠けている。</li> <li>理解の力が伸び悩んでいるので、新出の英文を理解する練習をしていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ルーティーンとしてやってきたパターンプラクティスやペアワークはこれからも継続していく。</li> <li>新出の英文を、最初は短文から始め、まとまった英文の大意を理解できるようにリスニングや長文読解をルーティーンに入れていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発展クラスの生徒たちがより上を目指そうと思える授業展開を心掛ける。</li> <li>基礎クラスの生徒には音声を中心としたペアワークを徹底し、そこから自己表現まで伸ばせるように工夫していく。</li> </ul>
3年	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識を教えるだけでなく、その知識を使って実際に表現し、発表する機会を積極的に設ける。</li> <li>単語テストや本文の書き取りテストなど、家庭で復習しなくてもその場で学習すれば点数がとれてしまうものが多いので、知識の定着が十分ではない。</li> <li>本文の内容に興味をもっている生徒が少なく、学習に意欲的に取り組むことができていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>視聴覚教材を使って、文法の紹介をしつつ、その知識を使用して、自分ができることや他人ができることを表現する機会を設ける。</li> <li>単語テストを一度だけ行うのではなく、複数回の内容を振り返るまとめテストを行い、知識の確実な定着を図る。</li> <li>本文の導入を行う際は、生徒の身近な話題から始め、生徒が興味をもつことができるように丁寧に行く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎・基本が身に付いていない生徒は放課後の補充教室を通して、定着させていく。</li> <li>発展クラスの生徒が意欲的に取り組める教材を準備し、より発展的、応用的な内容のペアワークや自己表現、英作文などに取り組ませる。</li> </ul>